

## ○宮城県地域と共生する再生可能エネルギー等・省エネルギー促進条例

平成十四年七月十七日

宮城県条例第四十一号

改正 平成一五年二月二一日条例第一号

平成二六年一〇月二三日条例第六〇号

平成二八年三月二二日条例第一五号

平成二九年三月二三日条例第一七号

令和五年一〇月四日条例第四三号

令和五年一二月二六日条例第六四号

〔宮城県自然エネルギー等・省エネルギー促進条例〕をここに公布する。

### 宮城県地域と共生する再生可能エネルギー等・省エネルギー促進条例

(平二六条例六〇・令五条例四三・改称)

地球的な規模での資源・環境の有限性という制約に直面している今日、エネルギー需給システムを今後どのような形で構築していくのかは、二十一世紀の地球社会にとって最重要課題の一つである。

我が国を含めた多くの国が西暦二〇五〇年までにカーボンニュートラル(温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と吸収源による除去量との間の均衡を達成することをいう。以下同じ。)を達成するという目標を掲げており、石油・石炭などの化石燃料の使用を抑制して二酸化炭素等の温室効果ガスの排出量を削減するとともに、自然環境の維持・整備等により温室効果ガスの吸収源となる森林や海洋の保全等に取り組む必要がある。

また、気候の大幅な変動は、自然災害の増加をもたらし、地球規模で大きな被害が発生し、本県もその例外ではない。

このような状況において、限られた資源を大切に使いながら、環境の保全に十分な注意を払い、地域の持続的な発展を可能にしていくためには、カーボンニュートラルを目指す取組を通じて再生可能な循環型社会への変革を強力に推し進め、社会成長につなげなければならないことは明らかである。

「地球規模で考え、地域に根ざして行動する」ことが求められている今、再生可能エネルギー等の導入促進について地域住民と事業者等が相互理解を基本に共生しつつ、地域資源の有効活用に努めること及び省エネルギーの施策を推進することによって、良好な環境を将来に引き継いでいく必要がある。

このような認識に立って、地球環境問題の解決に貢献し、持続的な発展を可能とする循環型社会及び脱炭素社会を築き上げるため、私たちができる役割を最大限に自ら果たすことを決意し、この条例を制定する。

(令五条例四三・全改)

(目的)

第一条 この条例は、再生可能エネルギー等の導入促進及び省エネルギーの促進について、基本理念を定め、県、市町村、県民及び事業者等(営利又は非営利で事業を行う個人又は法人をい

う。以下同じ。)の責務を明らかにするとともに、施策の基本的な事項を定めることにより施策を総合的かつ計画的に推進し、もって地球温暖化対策の更なる推進並びに自然環境の保全及び地域社会の健全な発展に寄与することを目的とする。

(平二六条例六〇・令五条例四三・一部改正)

(定義)

第二条 この条例において「再生可能エネルギー等」とは、太陽光、風力その他非化石エネルギー源のうち、永続的に利用することができるエネルギー又はエネルギーの利用形態をいう。

2 この条例において「省エネルギー」とは、エネルギーの使用の節約及び効率化を図ることをいう。

(平二六条例六〇・令五条例四三・一部改正)

(基本理念)

第二条の二 再生可能エネルギー等の導入促進及び省エネルギーの促進は、関係法令及びこの条例の遵守の下、地域環境等に配慮し、また、地域特性に適合するよう適切に行われなければならない。

2 再生可能エネルギー等の導入促進及び省エネルギーの促進は、地域住民への説明及び地域住民との対話により十分な理解を得ながら、地域との共生が図られるよう適切に行われなければならない。

(令五条例四三・追加)

(県の責務)

第三条 県は、前条に定める基本理念(以下「基本理念」という。)にのっとり、再生可能エネルギー等の導入促進及び省エネルギーの促進に関する総合的かつ計画的な施策を策定し、実施する責務を有する。

2 県は、市町村が再生可能エネルギー等の導入促進及び省エネルギーの促進に関する施策を策定し、実施しようとする場合には、必要に応じ、助言、情報の提供その他の支援を行うものとする。

3 県は、その事務事業の実施に当たっては、自ら率先して再生可能エネルギー等の導入及び省エネルギーの推進に努めなければならない。

(平二六条例六〇・令五条例四三・一部改正)

(市町村の責務)

第四条 市町村は、再生可能エネルギー等の導入に係る施策の実施に当たっては、基本理念にのっとり、地域から十分な理解が得られるよう必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

2 市町村は、その事務事業の実施に当たっては、自ら率先して再生可能エネルギー等の導入及び省エネルギーの推進に努めなければならない。

3 市町村は、県が実施する再生可能エネルギー等の導入促進及び省エネルギーの促進に関する施策に協力するものとする。

(平二六条例六〇・令五条例四三・一部改正)

(県民の責務)

第五条 県民は、基本理念にのっとり、その日常生活において、自ら再生可能エネルギー等の導入及び省エネルギーの推進に努めなければならない。

2 県民は、県が実施する再生可能エネルギー等の導入促進及び省エネルギーの促進に関する施策に協力するものとする。

(平二六条例六〇・令五条例四三・一部改正)

(事業者等の責務)

第六条 事業者等は、再生可能エネルギー等の導入に係る事業の実施に当たっては、基本理念にのっとり、地域から十分な理解が得られるよう努めなければならない。

2 事業者等は、その事業活動を行うに当たっては、自ら積極的に再生可能エネルギー等の導入及び省エネルギーの推進に努めなければならない。

3 事業者等は、県が実施する再生可能エネルギー等の導入促進及び省エネルギーの促進に関する施策に協力するものとする。

4 発電等関連事業者(電力の発電や送電、小売、熱の生成や供給等の事業に関わる者をいう。)は、その事業において、可能な限り再生可能エネルギー等の導入拡大に努めなければならない。

(令五条例四三・全改)

(連携の推進等)

第七条 県は、再生可能エネルギー等の導入促進及び省エネルギーの促進に関する施策の策定及び実施に当たっては、国、他の地方公共団体、大学その他の研究機関、県民、事業者等との十分な連携を図るとともに、相互の緊密な協力が増進されるよう努めるものとする。

(平二六条例六〇・令五条例四三・一部改正)

(基本方針)

第八条 県は、西暦二〇五〇年までのカーボンニュートラルの実現を目指し、次に掲げる基本方針に基づき、再生可能エネルギー等の導入促進及び省エネルギーの促進に関する施策を総合的かつ計画的に推進するものとする。

一 地域特性に応じた再生可能エネルギー等の導入促進及び省エネルギーの促進を図ること。

二 県民の日常生活における様々な場面に応じた再生可能エネルギー等の導入促進及び省エネルギーの促進を図ること。

三 事業者等の業態に応じた再生可能エネルギー等の導入促進及び省エネルギーの促進を図ること。

四 再生可能エネルギー等及び省エネルギーに係る技術開発の動向に応じた再生可能エネルギー等の導入促進及び省エネルギーの促進を図ること。

五 再生可能エネルギー等の導入促進及び省エネルギーの促進に関連する産業及び人材の育成に努め、地域の雇用創出を図ること。

六 再生可能エネルギー等の導入及び省エネルギーの推進に積極的に取り組む地域づくりに努め、地域の活性化を図ること。

(平二六条例六〇・令五条例四三・一部改正)

(基本計画)

第九条 知事は、再生可能エネルギー等の導入促進及び省エネルギーの促進に関する施策の総合

的かつ計画的な推進を図るため、前条の基本方針に基づき、再生可能エネルギー等の導入促進及び省エネルギーの促進に関する基本的な計画(以下「基本計画」という。)を定めなければならない。

- 2 基本計画は、次に掲げる事項について定めるものとする。
  - 一 本県の地域特性に即した再生可能エネルギー等の導入促進及び省エネルギーの促進に関する総合的かつ長期的な目標及び施策の大綱
  - 二 前号に掲げるもののほか、再生可能エネルギー等の導入促進及び省エネルギーの促進を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項
- 3 知事は、基本計画を定めるに当たっては、県民の意見を反映することができるよう必要な措置を講じなければならない。
- 4 知事は、基本計画を定めるに当たっては、あらかじめ、宮城県環境審議会の意見を聴くとともに、議会の議決を経なければならない。
- 5 知事は、基本計画を定めたときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。
- 6 知事は、三年ごとに、基本計画の推進の状況について調査を行い、その結果を公表するものとする。
- 7 知事は、前項の結果等を勘案し、基本計画に検討を加え、必要があると認めるときは、これを変更しなければならない。
- 8 第三項から第五項までの規定は、基本計画の変更について準用する。

(平一五条例一・平二六条例六〇・令五条例六四・一部改正)

(普及啓発)

第十条 県は、県民及び事業者等が再生可能エネルギー等の導入及び省エネルギーの推進の効果並びに必要性についての理解を深めるとともに、これらのものの自発的な活動を行おうとする意欲が増進されるよう普及啓発に努めるものとする。

(平二六条例六〇・令五条例四三・一部改正)

(自発的な活動への支援)

第十一条 県は、県民、事業者等が行う自発的な活動で再生可能エネルギー等の導入及び省エネルギーの推進に資するものについて、必要な支援を行うよう努めるものとする。

(平二六条例六〇・令五条例四三・一部改正)

(関連産業の振興)

第十二条 県は、再生可能エネルギー等の導入促進及び省エネルギーの促進に関連する産業の振興のため、事業者等が行う事業活動で再生可能エネルギー等の導入促進及び省エネルギーの推進に資するものについて、必要な支援を行うよう努めるものとする。

(平二六条例六〇・令五条例四三・一部改正)

(研究開発の促進等)

第十三条 県は、再生可能エネルギー等の導入促進及び省エネルギーの促進に資する技術の向上を図るため、研究開発の促進及びその成果の普及その他の必要な措置を講ずるものとする。

(平二六条例六〇・一部改正)

(表彰等)

第十四条 知事は、再生可能エネルギー等の導入及び省エネルギーの推進に関して特に功績があると認められるものに対し、表彰その他の必要な措置を講ずるものとする。

(平二六条例六〇・一部改正)

(県民意見の反映)

第十五条 県は、再生可能エネルギー等の導入促進及び省エネルギーの促進に関する施策に、県民の意見を反映することができるよう必要な措置を講ずるものとする。

(平二六条例六〇・一部改正)

(財政上の措置)

第十六条 県は、再生可能エネルギー等の導入促進及び省エネルギーの促進に関する施策を着実に推進するため、必要な財政上の措置を講ずるよう努めるものとする。

(平二六条例六〇・一部改正)

(規則への委任)

第十七条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

(令五条例六四・旧第十八条繰上)

#### 附 則

- 1 この条例は、平成十四年十月一日から施行する。
- 2 附属機関の構成員等の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例(昭和二十八年宮城県条例第六十九号)の一部を次のように改正する。

[次のよう]略

附 則(平成一五年条例第一号)抄

(施行期日)

- 1 この条例は、平成十五年四月一日から施行し、同日以降の計画の策定、変更又は廃止について適用する。

附 則(平成二六年条例第六〇号)

(施行期日)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例の施行の際現に改正前の宮城県自然エネルギー等・省エネルギー促進条例(以下「旧条例」という。)第九条第一項の規定により定められた基本計画は、改正後の宮城県再生可能エネルギー等・省エネルギー促進条例(以下「新条例」という。)第九条第一項の規定により定められた基本計画とみなす。

(委員の任命及び任期の特例)

- 3 この条例の施行の際現に旧条例第十七条第二項の規定により任命された宮城県自然エネルギー等・省エネルギー促進審議会の委員である者は、この条例の施行の日において新条例第十七条第二項の規定により宮城県再生可能エネルギー等・省エネルギー等促進審議会の委員として任命されたものとみなす。この場合において、その任命されたものとみなされる者の任期は、同条第三項の規定にかかわらず、施行日における旧条例第十七条第二項の規定により任命され

た宮城県自然エネルギー等・省エネルギー促進審議会の委員としての任期の残任期間と同一の期間とする。

(附属機関の構成員等の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例の一部改正)

4 附属機関の構成員等の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例(昭和二十八年宮城県条例第六十九号)の一部を次のように改正する。

[次のよう]略

附 則(平成二八年条例第一五号)

この条例は、平成二十八年四月一日から施行する。

附 則(平成二九年条例第一七号)

この条例は、平成二十九年四月一日から施行する。

附 則(令和五年条例第四三号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(令和五年条例第六四号)

(施行期日)

1 この条例は、令和六年二月一日から施行する。

(附属機関の構成員等の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例の一部改正)

2 附属機関の構成員等の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例(昭和二十八年宮城県条例第六十九号)の一部を次のように改正する。

[次のよう]略